


しかはま自然観察会  『人も 自然も みんなともだち !』No.14	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市湖北台 2-14-7 ☎090-7275-9890 2018, 2, 24~25
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

第14回活動「土呂部のごちそう」ツアー体験

2回目のツアー体験。

雪の里山でどんな遊びをしたのでしょうか？

寒い！と言って、泣いたりしなかったのでしょうか？

イタヤカエデは、たくさんの樹液を出してくれたのでしょうか？

1, 日 時： 2018年2月24~25 (日) 1泊2日

2, 天 気： 1日目・・・曇りのち雪 小風

気温・・・-0, 8℃

雪の中・・・-0, 9℃

夜9時頃・・・-6, 5℃

日中はぬかるんでいた玄関前は、この時間になるとカチカチに凍っていた。

2日目・・・晴れのち曇り 微風

朝の部屋・・・-1, 2℃

窓ガラスは一面凍っている

3, 交 通：○鬼怒川温泉駅までは、特急けごん107号

鬼怒川温泉駅から土呂部まではレンタカー

4, 場 所：○栃木県日光市栗山郷土呂部

日光茅ボッチの会の活動に参加

ツアー代金 大人3000円、小人1000円

(昼食、お土産「メイプルウオーター」、保険料込み)

5, 宿 泊：民宿水ばしょう苑 ☎0288-97-1214

女将さんは「冬だと10人ぐらいの宿泊。夏は涼しいヨー。」とおふくろの味でもてなしてくれる。

夕朝付きで、大人6000円、小人5000円、幼児2000円

6, 参加者：総数 7人

内訳 3家族 大人 3

小学生 1

幼児 2

スタッフ 1

## 7, 活動の様子

### ①1日目(2月24日)

- レンタカー7人乗れば荷は膝に快適に走る土呂部を目指して道には雪はあまりなく、40分程で民宿水ばしょう苑に着きました。女将さんが気持ちよく出迎えてくれました。部屋で着替え、いよいよ雪山遊びに出かけます。
- 日光茅ポッチの会の飯村さん・青山さんが、ソリ・ロングスパッツ・かんじきを用意してくれました。赤松が2本生えているところを拠点に、活動開始です。
- 「ぼくの前に、道はない。ぼくの後に、道はできる。」かんじきでも、ゴボゴボと足は沈んでしまいます。登るほどに斜面は急になってきます。そこをソリを引いて登っていきますから、体はポカポカと暖かくなってきました。ソリにのって「すべるよー!」。雪に潜ってしまい、急斜面でも、ソリはなかなか走ってくれません。少しずつ滑るようになってきました。雪を顔に受けながらのソリ遊びは、なかなかの醍醐味がありました。
- 豚汁を食べて一息つく我らここは土呂部の雪の里山もう一時を回っています。雪の降る赤松の下で、昼食です。「寒い時には、暖かい汁物が一番!」と、豚汁を作りました。ネギ・白菜・ゴボウ・豚肉を煮て、最後にインスタントの味噌を入れました。コッフェルは勢いよく煮たってきました。子どもたちからも、「暖かくて、おいしい!」の喚声があがりました。二杯目のおかわりで、きれいになくなってしまいました。この豚汁で元気がでたのか、ソリを引いて、もっと高い所まで登っていきます。雪にまみれながらもどンドン活動する姿は、里山の木々と仲良くなっているようでした。
- 三時半、「そろそろ帰ろうか?」。荷物をまとめて、雪道を引き返します。ズボズボとぬかるかんじきは、股関節を強力に鍛えてくれました。雪の歩きにくさは、短い時間でもたくさんのエネルギーを消耗したようです。宿の玄関にへなへなと座り、苦勞しながらロングスパッツを取り靴をぬぎました。
- 入浴し、6時から夕食です。7人がテーブルに座り、寛太くんの「いただきます!」の合図で、大人が4人子どもが3人の夕食がはじまりました。こんな大家族での食事は、なんかあったか〜い感じがして、とても美味しい食事になりました。

子どもたちの姿を見ながらの食事は、ステキだな〜!

### ②2日目(2月25日)

いよいよ日光茅ポッチの会の「土呂部のごちそうツアー」だ。

- 9時には、準備完了!外は穏やかな天気で、ツアーに期待感が走る。10時に受け付けを済ませ、午前中は里山の散策だ。昨日、のらえもんが歩いたルートをとると、雪がしまっていて歩き易い。これならソリも滑りそう。案の定、ソリはけっこうなスピードで滑ってくれた。一度滑り降りると、登りはたいへんなのだ。

- ここの里山は北斜面だ。だから積雪は50cmほど。尾根まで登ると、雪はグンと少なくなる。南斜面には、ドングリの木がたくさん生えている。そのドングリの木から「コンコン」という音が聞こえてきた。「なんだろう？」と思っていると、参加者の一人が「オオアカゲラだ！」と教えてくれた。急いで双眼鏡を出し、ドングリの木を追った。「いた！いた！」赤白っぽいお腹に黒の縞が入っている。初めて、じっくりと観察できた。大収穫だ！胸の中を、スーッと爽やかさが走った。「ありがとう！」という思いだった。尾根から見える静かな集落は、美しく目にはいつてきた。
- 尾根から見る土呂部集落は、屋根に雪をのせて静まりかえっている。現在は35人ほどが住んでいるという。  
以前は小学校もあり、魚の養殖や牛の飼育などをして、にぎわっていたようだ。尾根下に並ぶ茅ボッチは、牛のエサとして利用されていたが、今は利用されることはなく、それ故この里山は灌木が侵入し草原としての役割を失い掛けている。それを復活させたのが日光茅ボッチの会の皆さんだ。盆花として利用されていた草花が、今またよみがえり、訪れる人々の目をたのしませてくれるという。が、その盆花を食べてしまうのが鹿で、春から秋まで、回りを電気柵で囲っているのだ。
- 昼食はカレーライスにカツが付き椅子とテーブルみんな雪だった  
薪ストーブの上では、メイプルシロップ作りのための鍋が湯気を上げている。その回りで、昼食だ。水ぼうしょうの女将さんが作ってくれたカツカレー！艶のある白米にたっぷりのカレールー！野菜付きのカツは別皿だ。黙々と食べる頭上には太陽が輝き、木々からはエナガのメロデーが聞こえてくる。そうして静寂と白の世界に放り込まれたツアー参加者たちは、少しずつうち解け合っていく。話しかけ質問し、お互いの表情を読み解きながら・・・。
- ポタポタと命の泉しぼり出しイタヤカエデは凜と立っている  
18リットルポリタンクを4個ソリにのせ、みんなでイタヤカエデに向かっていく。「これには、いっぱいたまってる！」「これは、空だネー」なんでも、今年の寒さのせいで、樹液の出は芳しくないという。それでも4個のポリタンクは重くなった  
1本のイタヤカエデにドリルで穴を開け、樹液の出を確かめた。ポタポタと樹液が落ちてくる。なめてみると甘い！糖度は1,4だった。  
だんだん暖かくなるこれからの樹液の出に、大いに期待したい。
- テーブルにサルナシ・メイプル並んでる森の恵みはただおいしくて  
ツアーの活動が終了し、ストーブの回りで休憩をとった。喉を潤すのは、もちろんメイプルウオーターを煮詰めた樹液だ。糖度が1,4から2,5へと上がり、ずいぶんと甘くなっている。色も、白っぽい色から琥珀色になっている。そして、おやつとしてテーブルに並んだ物は、手作りであるのはもちろんのこと、森の恵みであり土からの贈り物であった。  
①サルナシ（別名シラクチヅル、コクワ）を氷砂糖で煮たものをクッキーにのせて食べる。  
これは美味！氷砂糖は白だが、煮詰めていくと、なぜか黒くなるという。

いいおやつだ！

サルナシは、北海道ではコクワといい、木にからまった蔓を引っ張りおろし、食べた記憶がある。霜に当たると実は柔らかくなり美味しくなるのだ。たくさん食べると、お尻が痒くなる時かかされていた。

このコクワは熊の好物で、コクワを取りに行くと、その影には熊がいるような気がしたものだった。

②ブルーベリーを砂糖で煮込んだものをクッキーにのせて食べる。

ブルーベリーの甘酸っぱさがいい！もちろん、ブルーベリーは土呂部産だ。

③山ブドウ酵母とメイプルウオーターを使ったパン

これも美味！深みぼある味・香り！

④薪ストーブで焼いたさつまいも2種

さつまいもは、ひとつは店頭で売られている中身が黄色っぽいもの、もう1種は皮は白っぽくて中身はオレンジ色っぽいものだった。ふっくらとしていて、どちらも甘みがたくさん引き出されていた。

⑤最後に出てきたのは、メイプルシロップをかけたかき氷！

かき氷は、回りにたくさんある雪を利用した。紙コップに雪を高くつめて、そこにメイプルシロップをたっぷりかけてもらう。大好評で、子どもたちはもちろんのこと大人も、二杯三杯とおかわりをしていました。

ただ、メイプルシロップは土呂部産ではなく、カナダ産だという。土呂部産のメイプルシロップは完売してしまっていて、在庫がないそうだ。

#### ○ 雪の華

土呂部産メイプルシロップの商品名です。2017年に初めて、土呂部の元気なお母さん方6名が協力してつくりあげました。一瓶30mmリットルで1200円。それを1000個、道の駅で完売したそうです。

高価なものも納得です。イタヤカエデの樹液（メイプルウオーター）を40～50倍までひたすら煮詰め、糖度60%までに仕上げるのに、1リットルの樹液から25mmリットルしかシロップはできないそうです。

そんな森の宝物を、土呂部のお母さんたちが作り上げたのです！

#### 8、親と子の、いきいき感想

##### ○ 雪の山 かんじきないと ずぼずぼと

最初は山をのぼるときつかれたけど、とん汁がおいしかったです。

その次の日は、ハンターさんの話しが面白かったです。

うさぎの足あともみました。

栗原北小3年

##### ○ はじめての雪体験、たのしかったです！

（メイプルシロップをかけた雪の）かき氷もおいしかったです！

母

##### ○ 貴重なメイプルシロップ採りを体験させていただき、ありがとうございます。

来年も、できたら参加させていただきたいと思います。

雪の降る中でたべた豚汁も、本当においしかったです！

母